2020年度 聖隷こども園桜ヶ丘　自己評価結果

【聖隷こども園桜ヶ丘 教育・保育理念】
キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章に則り、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指します。
＊愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
＊一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
＊自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
＊在園・地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する。

【園目標】
・子どもたち一人ひとりが愛され、受け入れられて、愛することを知る
・遊びや体験を通して心身を育て、子どもたち一人ひとりの個性をのばしていく

聖隷こども園桜ヶ丘では、「保育者の為の自己評価チェックリスト～保育者の専門性の向上と園内研修の充実のために～」を使い、職員が自己評価を行いました。自己評価結果から見えてきた園としての課題を職員間で共有し、教育・保育の向上の為に次年度につなげていきたいと思います。

評価項目別の達成および課題状況項目	自己評価・課題
第１章 総則 1.教育及び保育の基本と目標	・「環境を通して教育及び保育を行うために、 重視しなければならない事項」について、自らの言葉で説明ができないと感じている職員が多い。自分の保育を言葉で、説明できる力と環境と保育への理解を深める必要を感じる ・乳幼児期の教育及び保育で生涯にわたる生きる力の基礎が培われる重要な時であることを再確認した職員が多い。今後も保育指針や保育要領に目を通して理解を深めていく。

2.特に配慮すべき事項 （1）教育及び保育の配慮 （2）健康支援 （3）食育 （4）特別支援教育・障碍児保育	・一人ひとりの気持ちを受け止める重要性を感じ、意識している。否定ではなく肯定的なの言葉を掛ける等普段から気に掛けて保育をしている。 ・健康管理表を活かし、また子どもたちをよく観察をして変化に気づけるように心がけている。 ・全園児の出生等の把握は難しいので、要録を活用していく ・安全に楽しく食事ができるように言葉を掛けて子どもたちと接している。 ・「食育」を意識して食べ方や座り方、その他のマナーなどは子どもたちにしっかりと伝えていくようにしている。 ・給食の職員が率先し、「絵本献立」として対象となった絵本の読み聞かせ等行い、園全体で食への興味関心が持てるようにしている。 ・職員間で情報を共有し子どもにとって最善の保育（療育）ができるように努めていきたい。 ・研修に参加し関わり方などを学び、適切な対応ができるようにする。 ・園児が並行通園している施設と連携を取り、情報共有をして個々にあった支援をしていく。
第２章　１．子どもの発達	・一人ひとりの子どもの発達を踏まえ発達過程を理解して個人差を尊重する保育をしていく大切さだと感じている職員が多い。出来るだけ個を大事にして保育をしている。 ・子どもたちが、好きな遊びを自分で選び、主体的に関わるような環境作りが、大切と感じているが十分には出来ていないと感じている。年齢にごとに考えていきたい。

第３章 1. 保育内容「健康」 2. 保育内容「人間関係」 3. 保育内容「環境」 4. 保育内容「言葉」 5. 保育内容「表現」	・保育者が子どもたちとどのように関り、人として大切なコミュニケーションの力を身に付けさせていくか、（社会性を養う）考え保育をしている。家庭と連携をとりながら、子どもの心の成長を支えていきたい。 「環境」では、自然を観察したり触れたりする中で美しさや不思議さなどに気付いたり、豊かな感性がもてるように自然との触れ合いを大切にしている。 「言葉」は職員一人ひとりが意識をして子どもに分かりやすく、暖かく美しい、正しい言葉使いで子どもに話しかけることを心掛けている。 ・今年度はコロナ渦により、例年行われている近隣施設や老人クラブの方々との交流が出来なかった。その中で私達に出来ることを考えていきたい。
第４章　低年齢児の保育実践上の配慮事項 1. 乳児期の保育に関する配慮事項 2. 満２歳以上～満３歳未満児の保育に関する配慮事項	・安全面に考慮し子どもたちの表現や様子を観察し、気持ちを受け止めていく。保育者自信が穏やかに子どもたちと関わることを意識して保育をしている。 ・何でも興味を持って「自分で！」とやってみようとする時期は、一人ひとりの発達に合わせて、自分でしようとする気持ちを尊重し、時には出来た喜びを味わえるように援助が必要と感じる。 小グループで過ごすことで子どもたちへの丁寧な関わりが出来るように配慮をしている。
第５章　指導計画作成に当たって配慮すべき事項	・「全体的な計画・教育課程」については、年度初めまでに共有し、理解しているが再度見直しをし、月案や週案、日々の保育に結び付け、計画に基づいた保育を心掛けたい。子どもの視点や思いを理解し、発達に合った指導計画を立て振り返り、見直しをしていくことが重要と考える。

第６章　研修と自己評価	・コロナ渦で外部研修の機会が減り、参加する研修が減ったと考える職員も多い。 しかし、オンライン研修は、研修を受けにくかった職員も受けやすくなると考える。積極的に参加できる環境を整えていく必要を感じる。
第７章　子育て支援	・保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるように、日頃から保護者とのコミュニケーションを図るようにしている。 ・子育てについて保護者からの相談に応じ、共通理解を得る為に懇談会や個別面談等の機会を設けている。 ・地域における子育て支援に関しては、園庭開放や月に３回親子ひろばにおいて、地域の子育の支援を取り組んでいる。
総評	・実際の子どもの姿を通して、一人ひとりの思いやその子らしさ、いま育ちつつあること、興味関心のある事などを保育者が理解する。さらに、子どもたちの遊びが充実するためには「こどもにとってどうなのか」という視点から保育の在り方を考えていきたい。その為には、子どもの良さや可能性をより深く、色々な視点からとらえるまなざしを保育者が伴えるように、子どもの姿を中心に保育について語り合う時間を日常的に作り出していきたい。 ・コロナ禍での保育については、感染対策を行いながらも、子どもの育ちに必要なことは経験できるように職員間で話し合い検討していきたい。 ・自己評価の結果から見えたことは、職員間で共有して次年度に活かしていく。